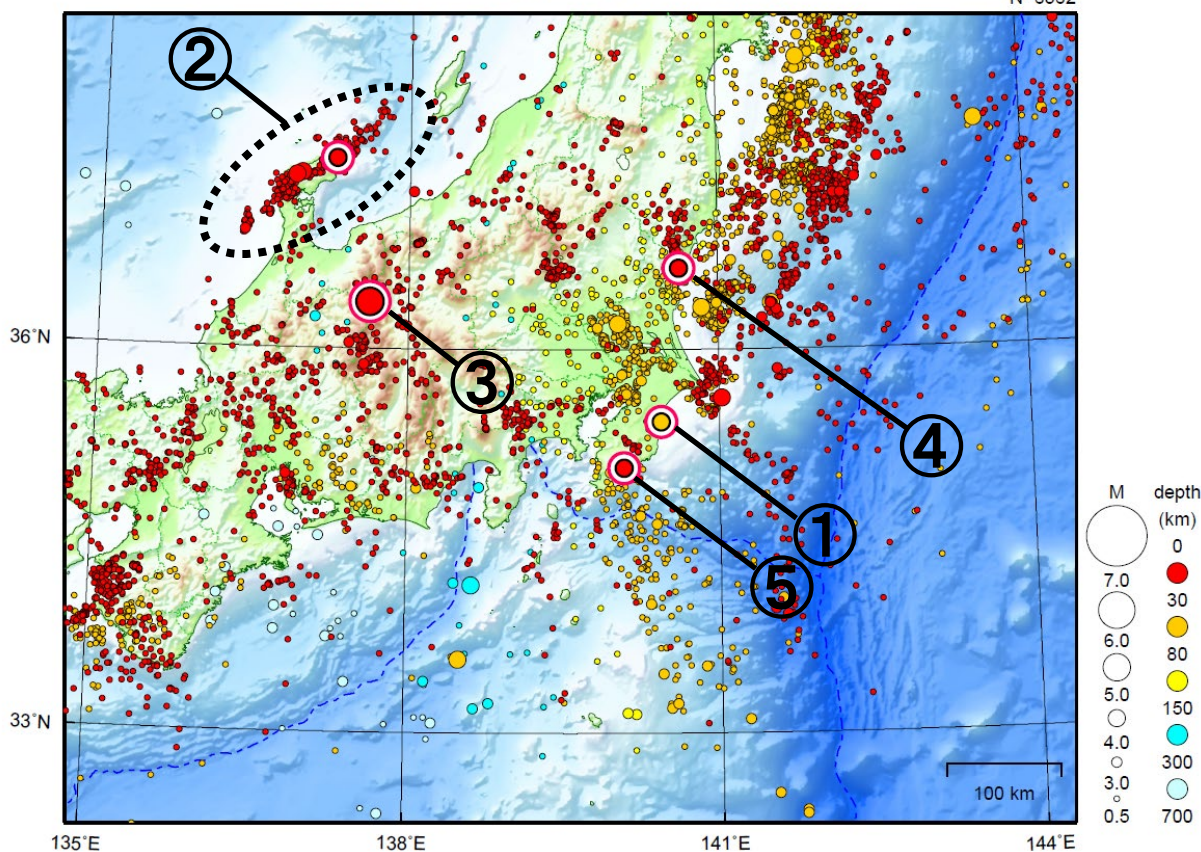


関東・中部地方

2026/01/01 00:00 ~ 2026/01/31 24:00

N=6562



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 1月9日に千葉県東方沖で M4.6 の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 1月13日に石川県能登地方で M4.3 の地震（最大震度4）が発生した。「令和6年能登半島地震」の地震活動域では、1月中に震度1以上を観測した地震が9回（震度4：1回、震度3：3回、震度2：1回、震度1：4回）発生した。
- ③ 1月15日14時40分に岐阜県飛騨地方で M4.8 の地震（最大震度4）、同日14時48分に M5.2 の地震（最大震度3）が発生した。
- ④ 1月24日に茨城県北部で M4.5 の地震（最大震度4）が発生した。
- ⑤ 1月29日に千葉県南部で M4.5 の地震（最大震度4）が発生した。

（図の範囲外）

- 1月10日に硫黄島近海で M5.5 の地震（最大震度3）が発生した。
- 1月22日に硫黄島近海で M6.5 の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。

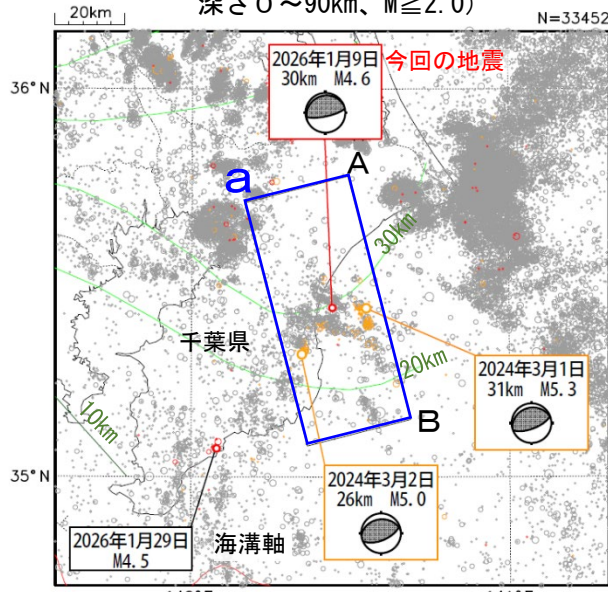
〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

気象庁・文部科学省

1月9日 千葉県東方沖の地震

震央分布図

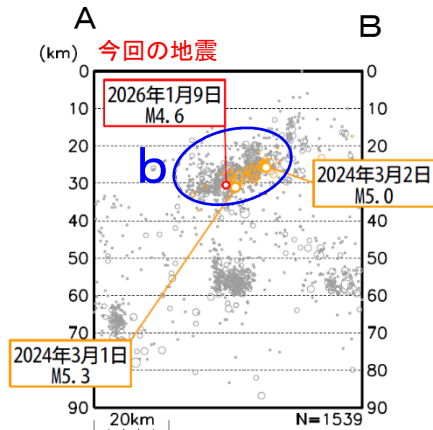
(1997年10月1日～2026年1月31日、
深さ0～90km、 $M \geq 2.0$)



1997年10月1日から2024年2月25日までは灰色
2024年2月26日から2024年3月25日までは橙色
2024年3月26日から2025年12月31日までは灰色
2026年1月1日以降を赤色で表示

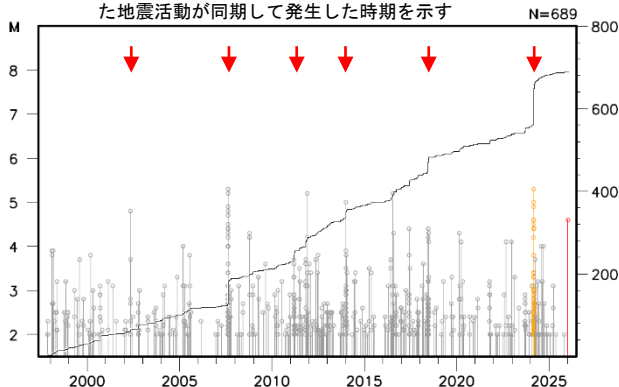
震央分布図中の緑色の破線は、弘瀬・他 (2008) によるフィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図

赤矢印はプレート境界でゆっくりすべりとまとめた地震活動が同期して発生した時期を示す



情報発表に用いた震央地名は「千葉県北東部」である。

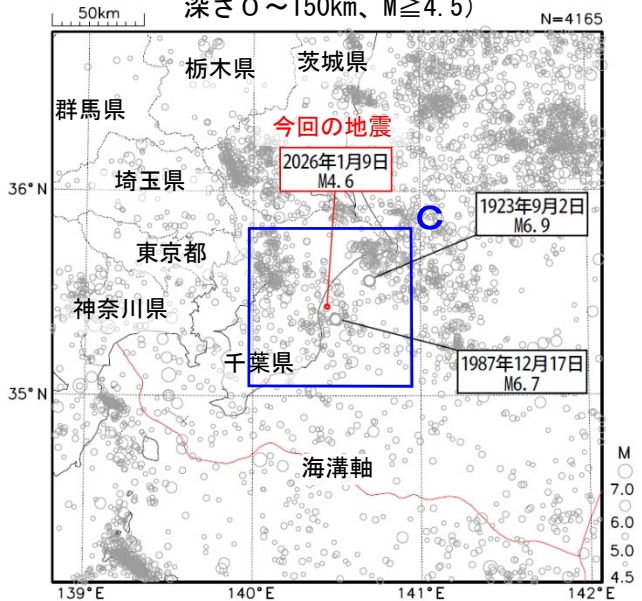
2026年1月9日20時07分に千葉県東方沖の深さ30kmで $M 4.6$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震の発震機構は、南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) では時々、プレート境界で発生したゆっくりすべり (国土地理院及び防災科学技術研究所による) を伴うまとまった地震活動がある。2024年の地震活動では、2月26日から地震活動が見られ、3月1日に $M 5.3$ の地震 (最大震度4) の地震が発生するなど、3月25日までに震度1以上を観測した地震が48回発生した。

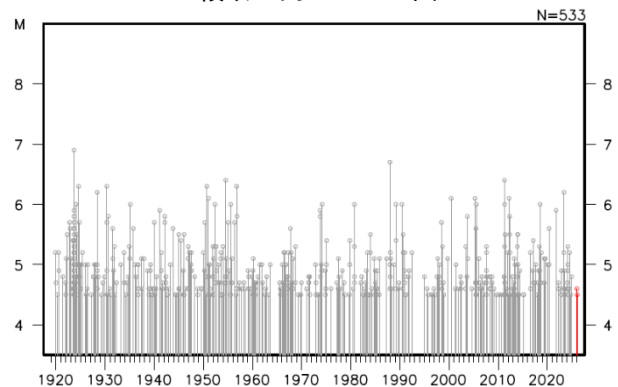
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。1987年12月17日に発生した $M 6.7$ の地震 (最大震度5) では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

震央分布図

(1919年1月1日～2026年1月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 4.5$)



領域c内のM-T図



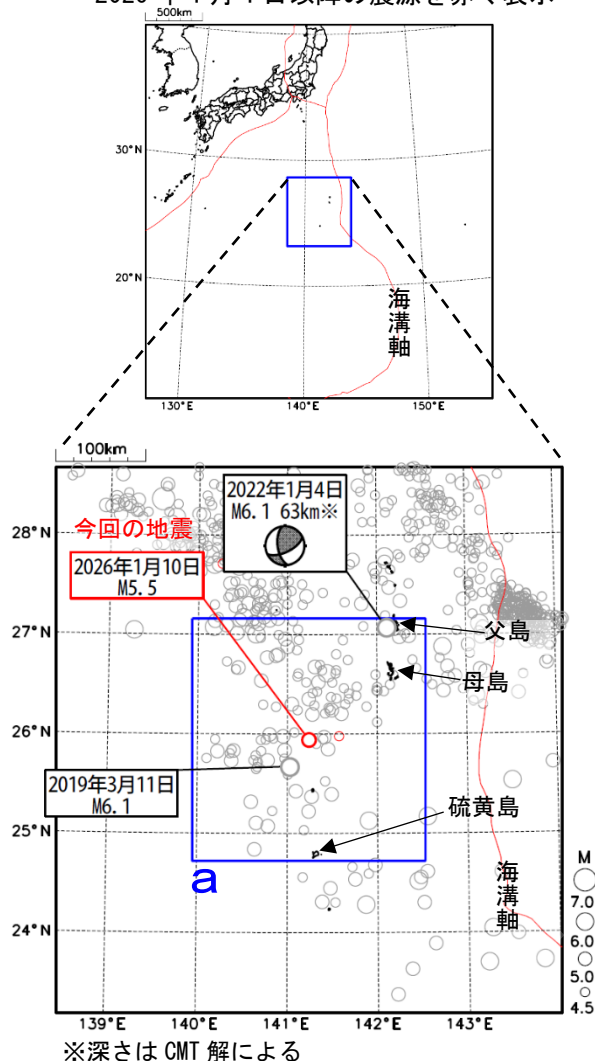
気象庁作成

1月10日 硫黄島近海の地震

震央分布図

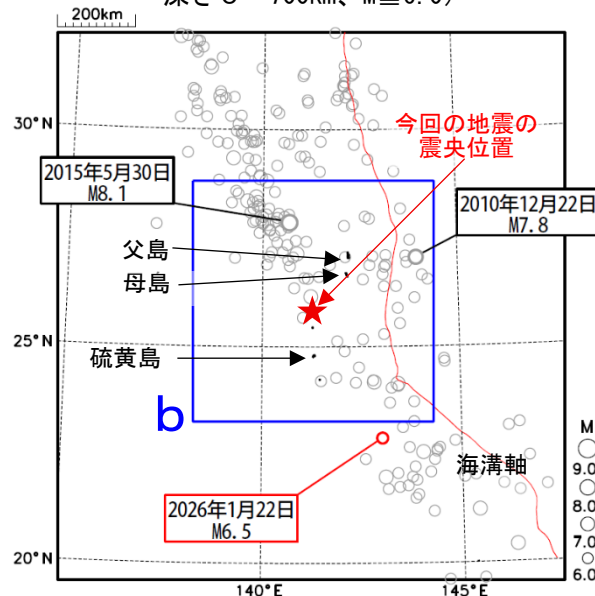
(2000年4月1日～2026年1月31日、
深さ0～700km、 $M \geq 4.5$)

2026年1月1日以降の震源を赤く表示



震央分布図

(1919年1月1日～2026年1月31日、
深さ0～700km、 $M \geq 6.0$)



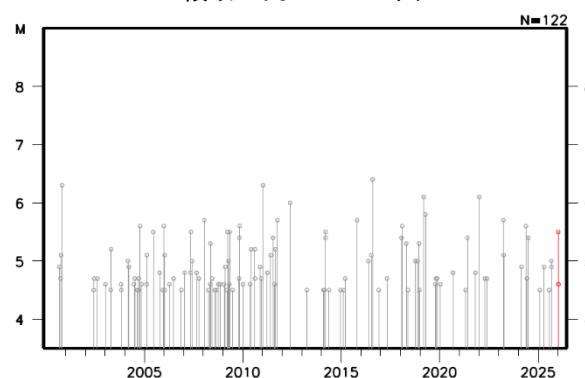
2026年1月10日08時51分に硫黄島近海でM5.5の地震（最大震度3）が発生した。

2000年4月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M6程度の地震が時々発生している。2022年1月4日にはM6.1の地震（最大震度5強）が発生し、1月31日までに震度1以上を観測する地震が14回（震度5強：1回、震度2：3回、震度1：10回）発生した。

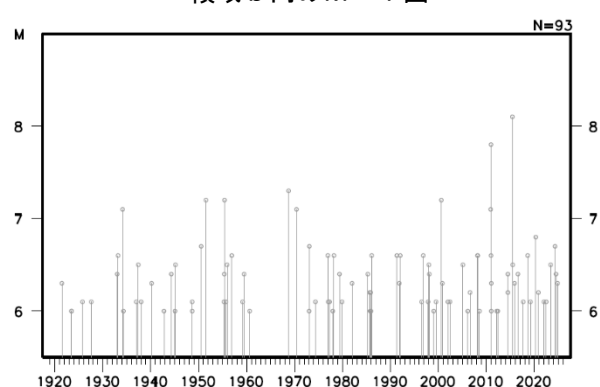
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M7.0以上の地震が時々発生している。2010年12月22日には父島近海でM7.8の地震（最大震度4）が発生し、八丈島八重根で0.5m^(注)の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015年5月30日には小笠原諸島西方沖の深さ682kmでM8.1の地震（最大震度5強）が発生し、関東地方で軽傷者8人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

(注) 巨大津波計の観測点により観測されたことを示す（観測単位は0.1m）。

領域a内のM-T図



領域b内のM-T図



気象庁作成

1月13日 石川県能登地方の地震

（「令和6年能登半島地震」の地震活動）

震央分布図

（2020年12月1日～2026年1月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 3.0$ ）

震源のプロット

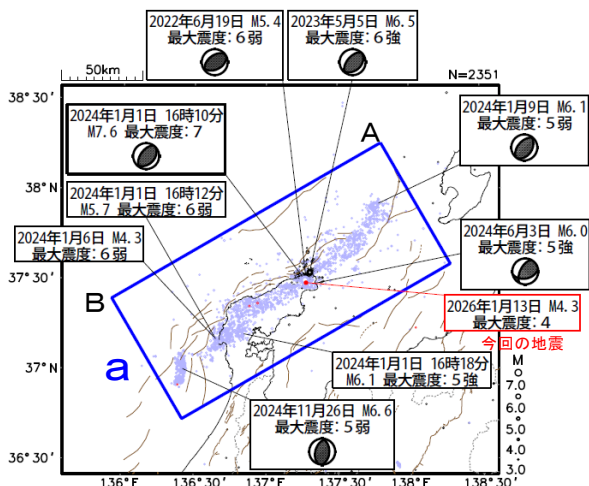
黒色 2020年12月1日～2023年12月31日

水色 2024年1月1日～2025年12月31日

赤色 2026年1月1日～31日

吹き出しは最大震度6弱以上の地震、 $M6.0$ 以上の地震
及び今回の地震

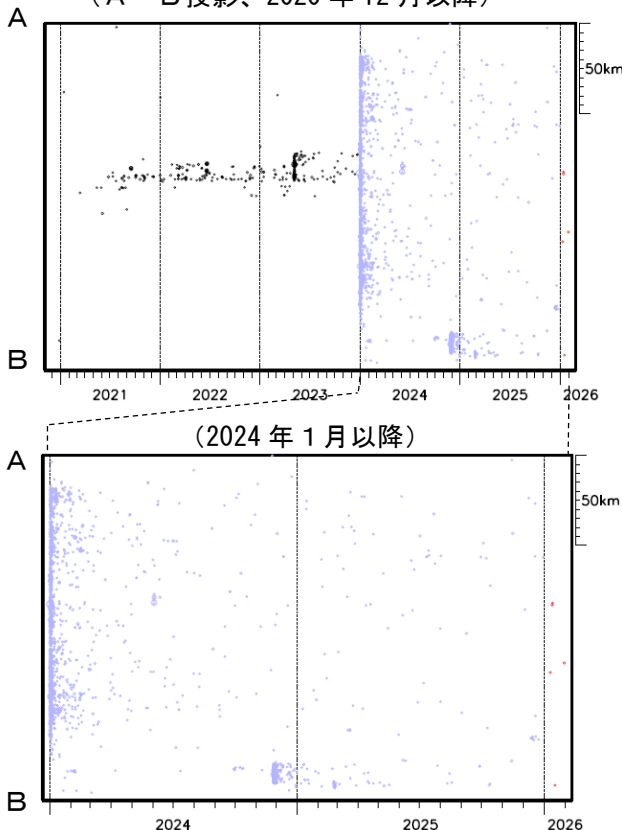
図中の発震機構はCMT解



図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す。

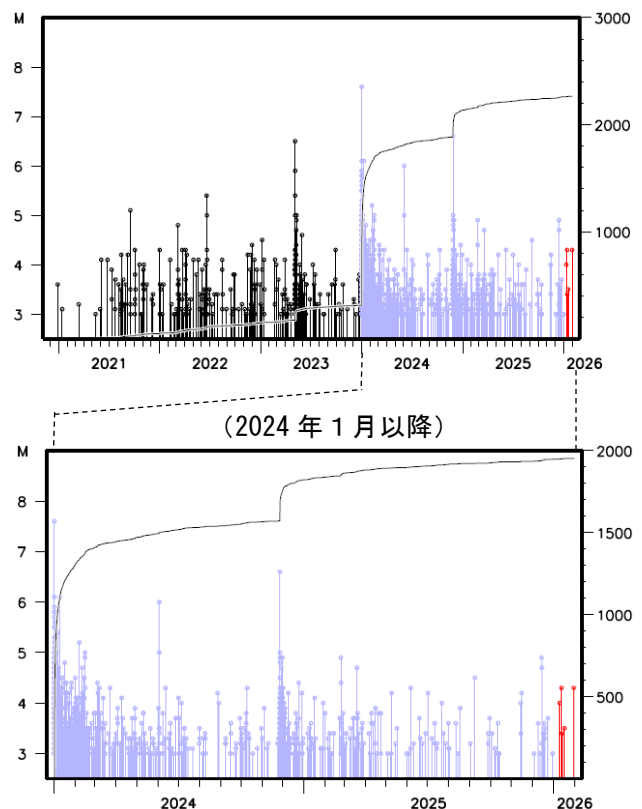
領域a内の時空間分布図

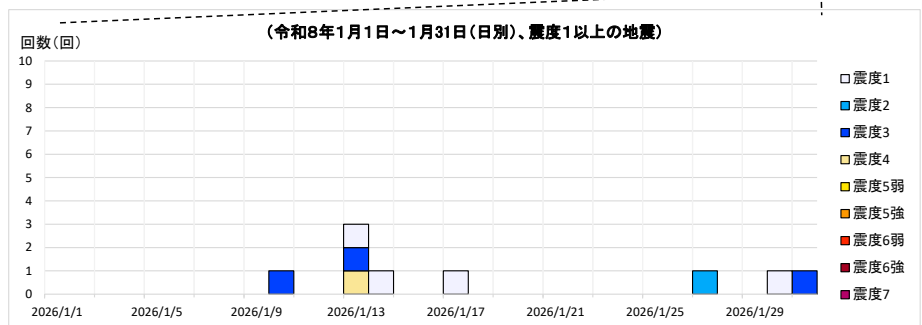
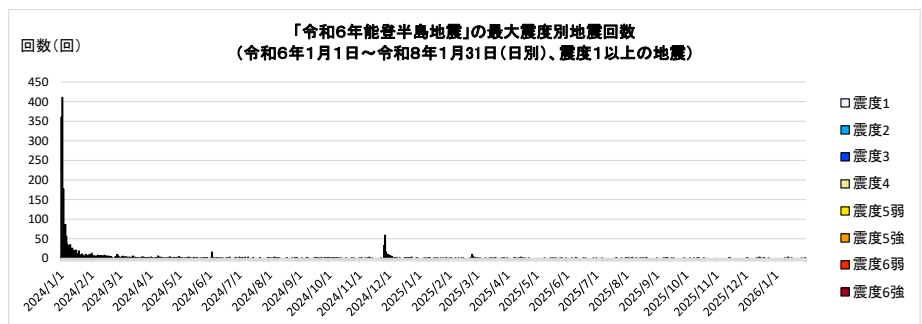
（A-B投影、2020年12月以降）



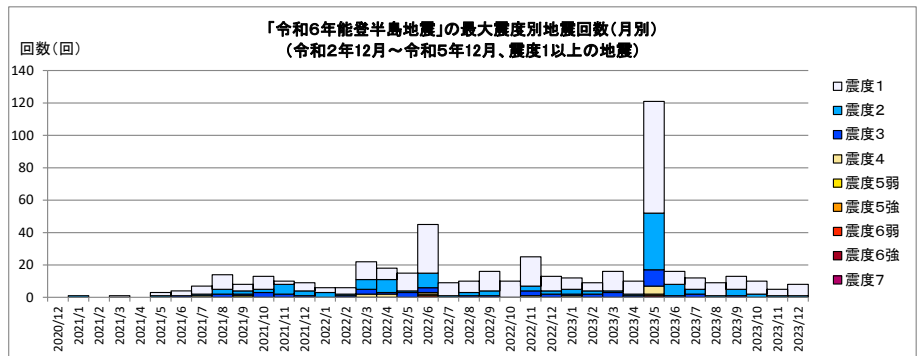
領域a内のM-T図及び回数積算図

（2020年12月以降）





【令和2(2020)年12月～令和5(2023)年12月の発生回数(月別)】



【令和2(2020)年12月以降の発生回数(年別)】

年別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
2020/12/1 - 12/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2021/1/1 - 12/31	39	19	10	1	1	0	0	0	0	70	70		
2022/1/1 - 12/31	130	39	18	6	0	1	1	0	0	195	265		
2023/1/1 - 12/31	151	61	21	6	0	1	0	1	0	241	506	2023/6/1～ 12/31の震度1 以上を観測した 回数 合計73回 月平均10.4回 月中央値10.0回	
総計(2020～2023)	320	119	49	13	1	2	1	1	0		506		

2020～2023	320	119	49	13	1	2	1	1	0	506	506	
2024/1/1 - 31	941	395	159	45	7	8	2	0	1	1558	2064	
2024/2/1 - 29	95	34	12	3	0	0	0	0	0	144	2208	
2024/3/1 - 31	49	17	4	0	0	0	0	0	0	70	2278	
2024/4/1 - 30	32	9	4	0	0	0	0	0	0	45	2323	
2024/5/1 - 31	20	6	2	0	0	0	0	0	0	28	2351	
2024/6/1 - 30	27	5	1	1	0	1	0	0	0	35	2386	
2024/7/1 - 31	16	3	1	0	0	0	0	0	0	20	2406	
2024/8/1 - 31	13	4	1	0	0	0	0	0	0	18	2424	
2024/9/1 - 30	14	4	0	0	0	0	0	0	0	18	2442	
2024/10/1 - 31	8	6	0	0	0	0	0	0	0	14	2456	
2024/11/1 - 30	88	41	5	1	1	0	0	0	0	136	2592	
2024/12/1 - 31	24	12	1	0	0	0	0	0	0	37	2629	
2025/1/1 - 31	8	2	2	0	0	0	0	0	0	12	2641	
2025/2/1 - 28	18	5	2	0	0	0	0	0	0	25	2666	
2025/3/1 - 31	7	3	1	1	0	0	0	0	0	12	2678	
2025/4/1 - 30	10	2	0	0	0	0	0	0	0	12	2690	
2025/5/1 - 31	6	1	1	0	0	0	0	0	0	8	2698	
2025/6/1 - 30	6	1	0	0	0	0	0	0	0	7	2705	
2025/7/1 - 31	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2711	
2025/8/1 - 31	12	1	0	0	0	0	0	0	0	13	2724	
2025/9/1 - 30	6	1	1	0	0	0	0	0	0	8	2732	
2025/10/1 - 31	5	1	0	0	0	0	0	0	0	6	2738	
2025/11/1 - 30	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2741	
2025/12/1 - 31	8	3	1	1	0	0	0	0	0	13	2754	
2026/1/1 - 31	4	1	3	1	0	0	0	0	0	9	2763	
総計(2020/12/1～2026/1/31)	1745	677	250	66	9	11	3	1	1		2763	

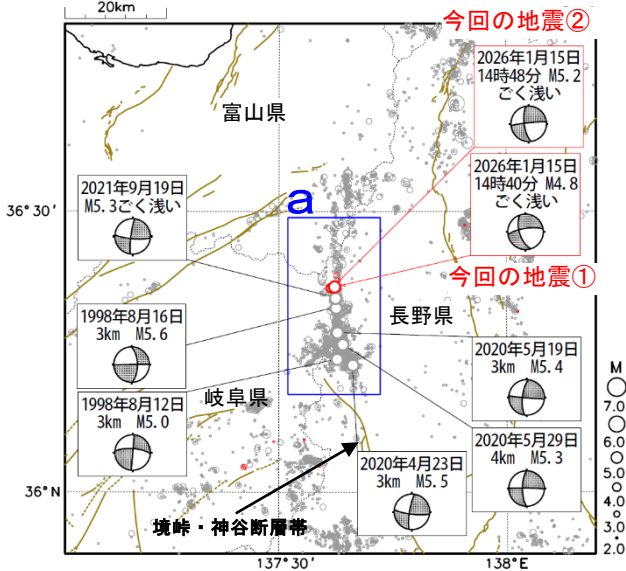
※2024/1/1以降は地震活動の領域が広がったことから、対象領域を拡大して地震回数をカウントしている。

1月15日 岐阜県飛騨地方の地震

(長野・岐阜県境付近の地震)

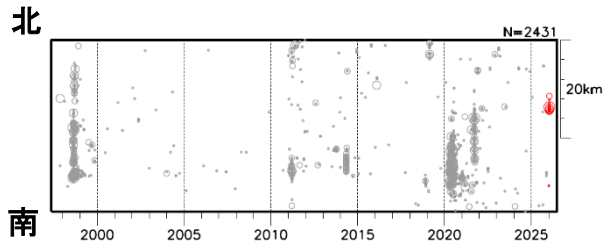
14時40分に発生したM4.8の地震の情報発表に用いた震央地名は「富山県東部」である。

震央分布図
(1997年10月1日～2026年1月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)
2026年1月1日以降の震源を赤色で表示

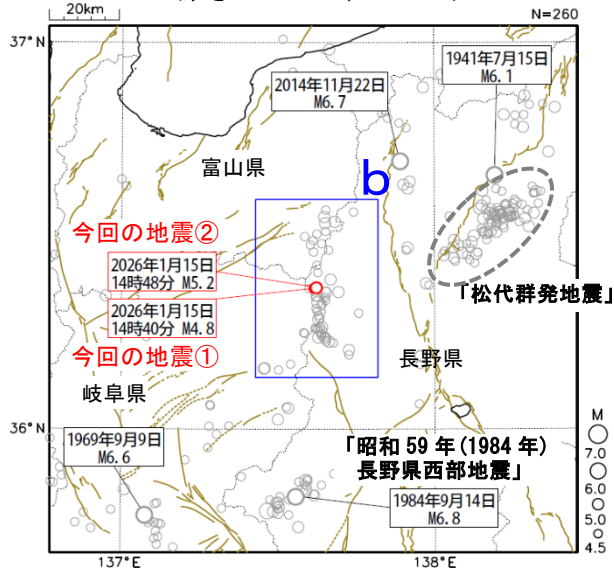


図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による主要活断層帯を示す。

領域a内の時空間分布図 (南北投影)



震央分布図
(1919年1月1日～2026年1月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 4.5$)



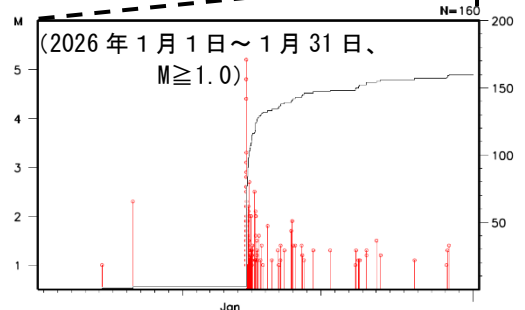
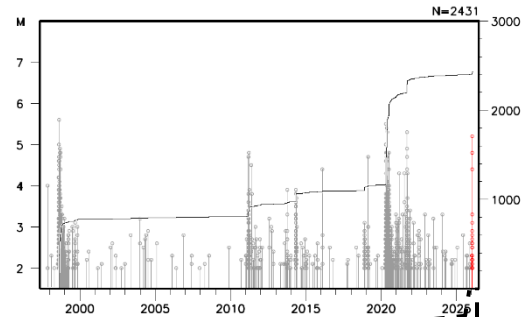
図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による主要活断層帯を示す。

2026年1月15日14時40分に岐阜県飛騨地方のごく浅い場所でM4.8の地震（最大震度4、図中①）が発生した。この地震の後、同日14時48分にほぼ同じ場所でM5.2の地震（最大震度3、図中②）が発生した。これらの地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。これらの地震は地殻内で発生した。今回の地震の震央付近では、1月中に震度1以上を観測する地震が8回（震度4：1回、震度3：1回、震度2：3回、震度1：3回）発生した。

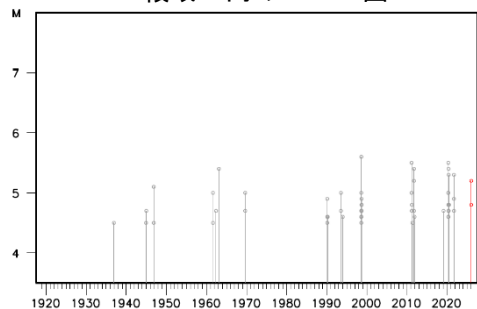
1997年10月以降の活動をみると、領域aでは時々まとまった地震活動がある。1998年の地震活動では、8月12日にM5.0（最大震度5弱）の地震が発生するなど、8月1日から10月31日までに震度1以上を観測した地震が284回発生した。また2020年の地震活動では、4月23日にM5.5（最大震度4）の地震が発生するなど、4月1日から7月31日までに震度1以上を観測する地震が225回発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M5程度の地震が時々発生しているものの、M6.0以上の地震は発生していない。

領域a内のM-T図及び回数積算図

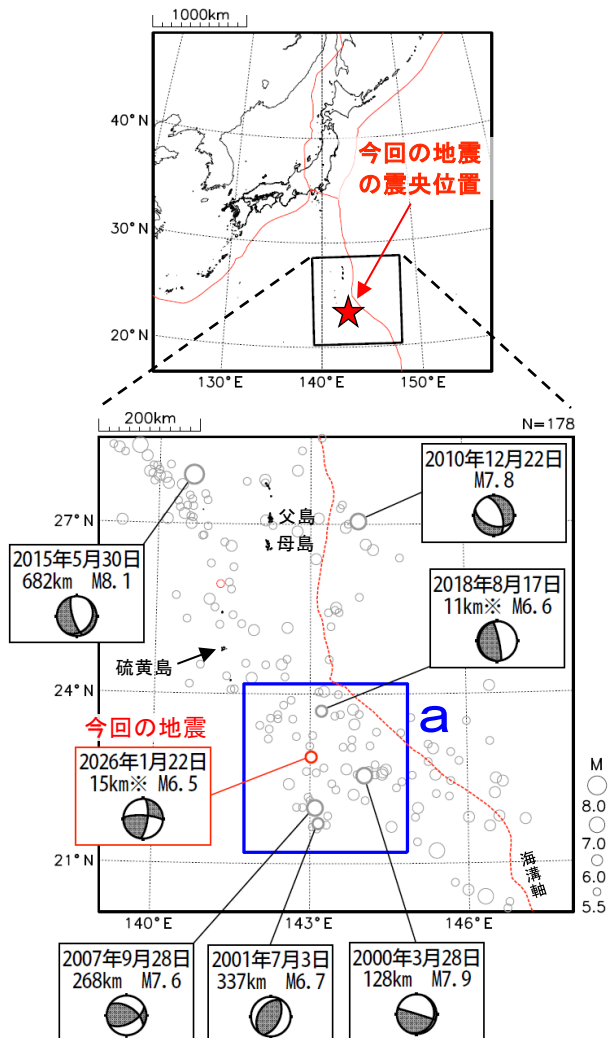


領域b内のM-T図



1 月 22 日 硫黄島近海の地震

震央分布図
(2000 年 1 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～700km、 $M \geq 5.5$)
2026 年 1 月の地震を **赤色** で表示
図中の発震機構は CMT 解
深さに「※」を付したものは、CMT 解による



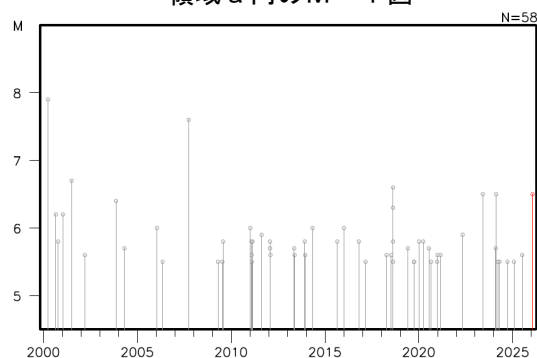
2026 年 1 月 22 日 01 時 37 分に硫黄島近海の深さ 15km (CMT 解による) で M6.5 の地震 (震度 1 以上を観測した地点はなし) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

2000 年 1 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域 a) では、M6.0 以上の地震が時々発生している。

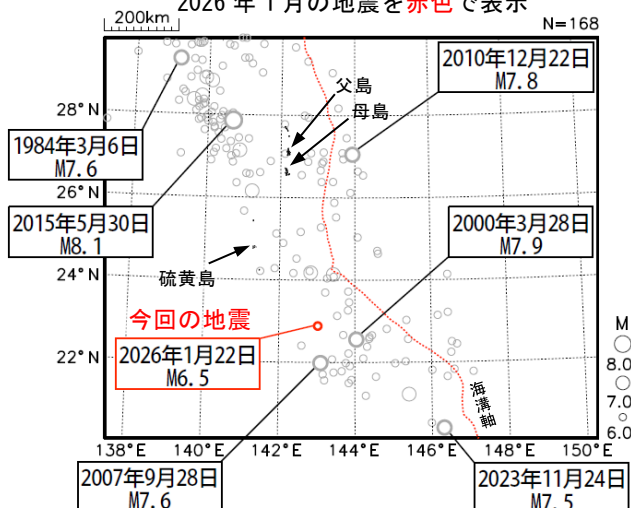
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、M7.0 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日には父島近海で M7.8 の地震 (最大震度 4) が発生し、八丈島八重根で 0.5m (注) の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015 年 5 月 30 日には小笠原諸島西方沖の深さ 682km で M8.1 の地震 (最大震度 5 強) が発生し、関東地方で軽傷者 8 人などの被害が生じた (被害は総務省消防庁による)。

(注) 巨大津波計の観測点により観測されたことを示す (観測単位は 0.1m)。

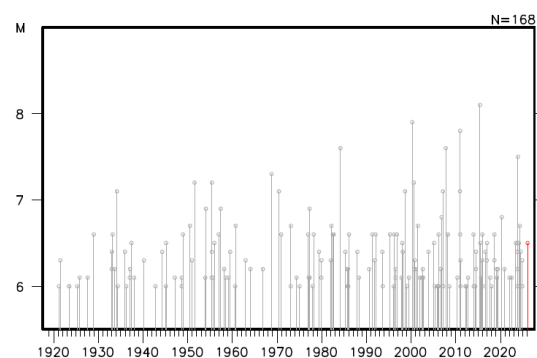
領域 a 内の M-T 図



震央分布図
(1919 年 1 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～700km、 $M \geq 6.0$)
2026 年 1 月の地震を **赤色** で表示

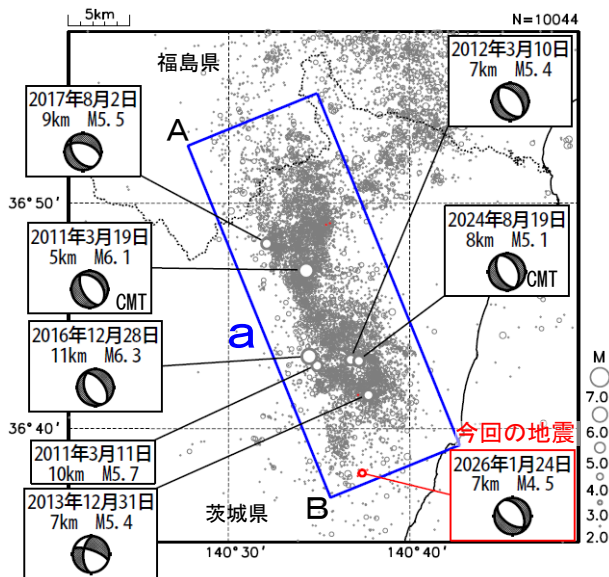


左図の領域内の M-T 図



1月24日 茨城県北部の地震

震央分布図
(2011年1月1日～2026年1月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)
2026年1月の地震を赤色で表示

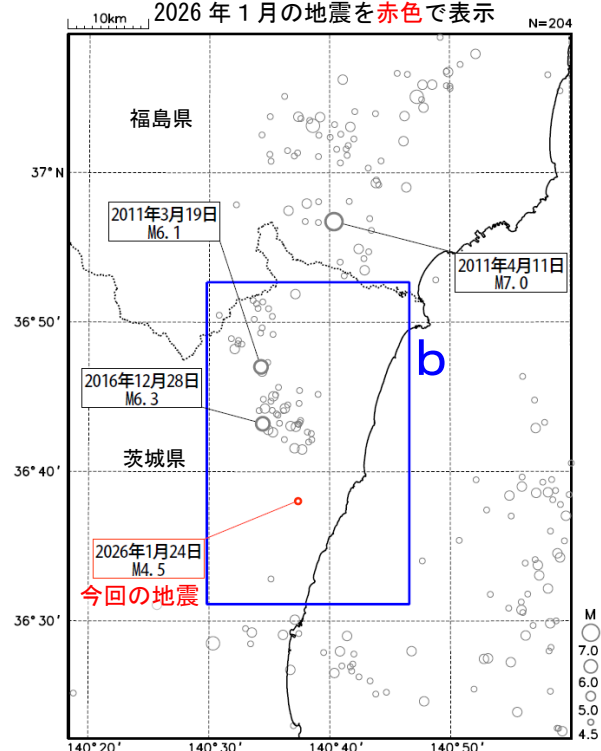


2026年1月24日06時19分に茨城県北部の深さ7kmでM4.5の地震(最大震度4)が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

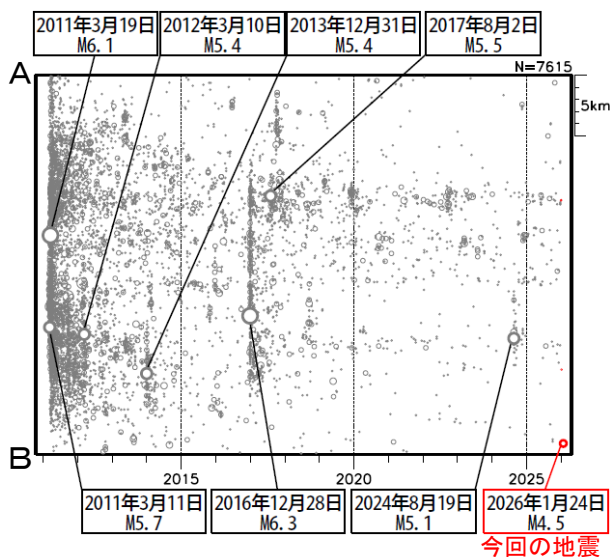
今回の地震の震央周辺(領域a)では、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、「東北地方太平洋沖地震」)の発生後に地震活動が活発化し、2016年12月28日に発生したM6.3の地震(最大震度6弱)では、茨城県で軽傷2人、住家半壊1棟、一部破損25棟などの被害が生じた(被害は総務省消防庁による)。この活発な地震活動は徐々に減衰しつつも継続している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、「東北地方太平洋沖地震」の発生前はM4.5以上の地震がまれに発生していて、「東北地方太平洋沖地震」の発生後はM4.5以上の地震が度々発生している。

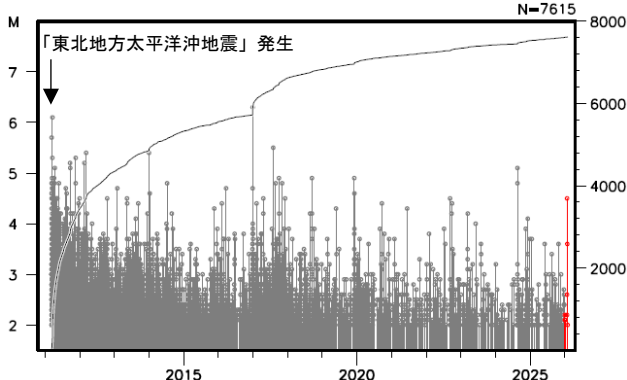
震央分布図
(1919年1月1日～2026年1月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 4.5$)
2026年1月の地震を赤色で表示



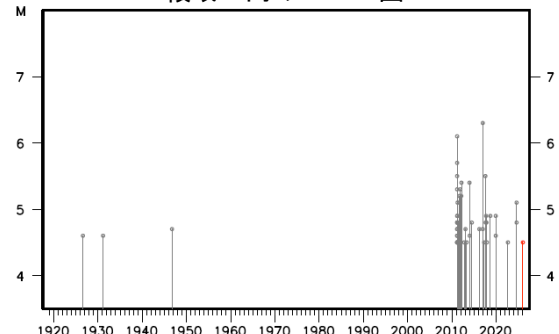
領域a内の時空間分布図(A-B投影)



領域a内のM-T図及び回数積算図

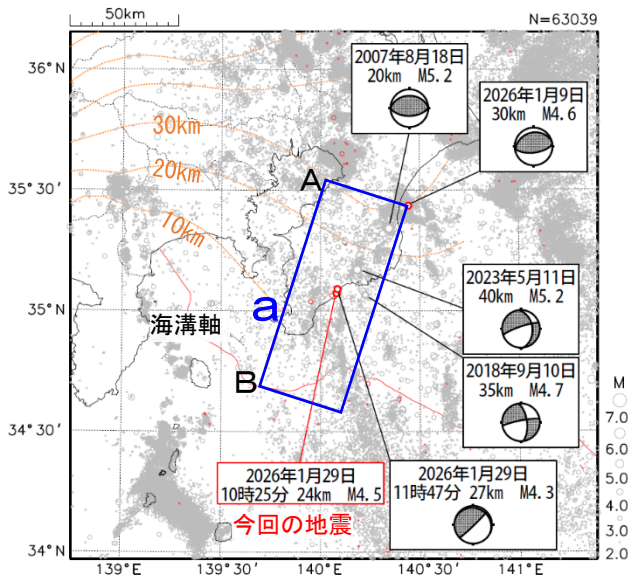


領域b内のM-T図



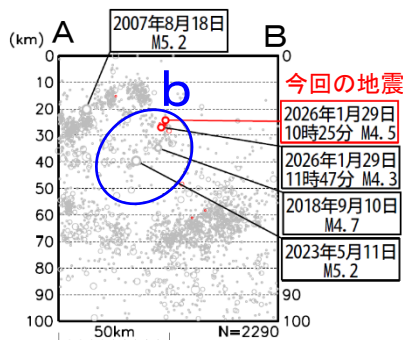
1月29日 千葉県南部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年1月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)
2026年1月の地震を赤色で表示

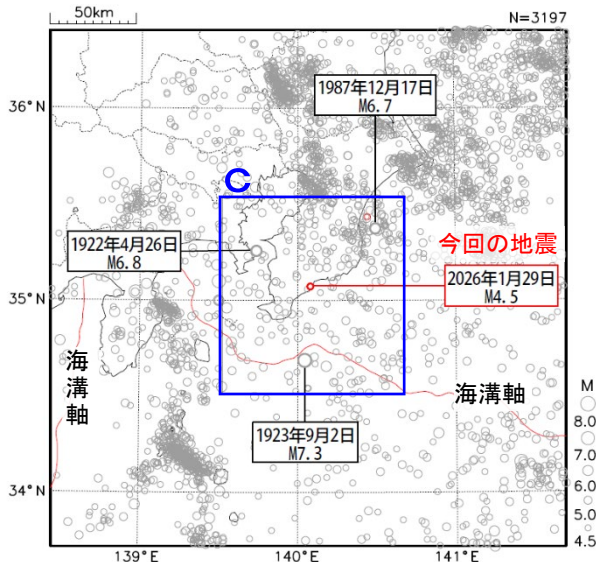


震央分布図中の橙色の破線は弘瀬・他（2008）によるフィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

領域a内の断面図（A-B投影）



震央分布図
(1919年1月1日～2026年1月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 4.5$)
2026年1月の地震を赤色で表示

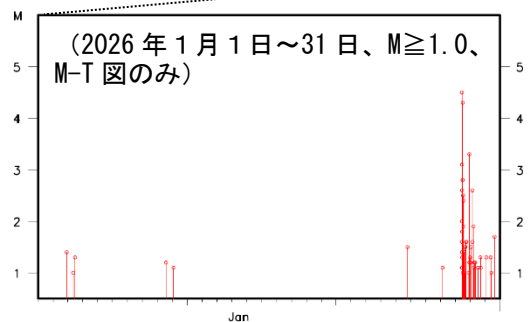
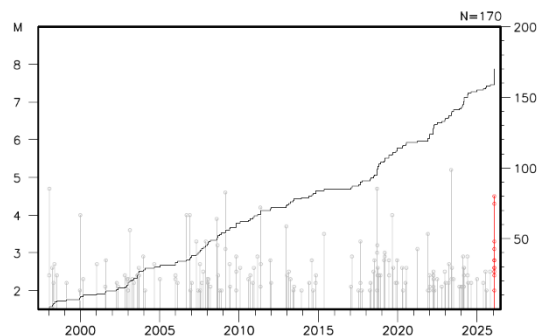


2026年1月29日10時25分に千葉県南部の深さ24kmでM4.5の地震（最大震度4）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。今回の地震の震源付近では、29日中に震度1以上を観測する地震が6回（震度4：1回、震度3：1回、震度2：1回、震度1：2回）発生した。

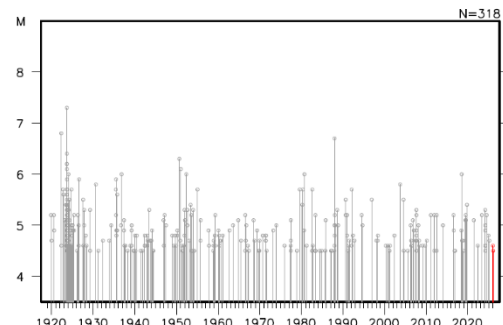
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4.0以上の地震が時々発生している。2023年5月11日にはM5.2の地震（最大震度5強）が発生した。この地震により、負傷者8人、住家一部破損77棟の被害が生じた（2024年3月6日17時00分現在、総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）ではM6.0以上の地震が時々発生している。1987年12月17日にはM6.7（最大震度5）の地震が発生した。この地震により、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損7万余棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図



気象庁作成